

# 会議録

会議の名称	第8回小金井市子ども・子育て会議	
事務局	子ども家庭部子育て支援課	
開催日時	令和5年8月9日(水) 19時00分から20時10分まで	
開催場所	801会議室	
出席者	委員	会長 倉持 清美 委員 会長職務代理 萬羽 郁子 委員 委員 石倉 秀一 委員 奥村 啓 委員 喜多 明人 委員 古源 美紀 委員 鈴木 隆行 委員 谷村 保宣 委員 檀原 延和 委員 長岡 好 委員 深井 園子 委員 村田 由美 委員 欠席委員 栗田小百合 委員 水津 由紀 委員 宗片 匠 委員
	事務局	子ども家庭部長 堤 直規 子育て支援課長 秋葉 美苗子 子ども家庭支援センター等担当課長 黒澤 佳枝 子育て支援係長 古賀 誠 子育て支援係 山下 真優 保育課長 中島 良浩 保育係長 清水 一樹 児童青少年係長 鈴木 拓也 学童保育係長 野村 哲也 児童青少年課主査 前田 裕女
傍聴の可否	可	
傍聴者数	6人	
会議次第	1 開会 2 「のびゆくこどもプラン 小金井」の進捗状況の点検・評価 3 その他 4 閉会	
発言内容・ 発言者名(主な 発言要旨)	別紙のとおり	
提出資料	資料49 「のびゆくこどもプラン 小金井(第2期小金井市子ども・子育て支援事業計画)」事業進捗状況に対する令和5年度評価について(報告)	

## 第8回小金井市子ども・子育て会議 会議録

令和5年8月9日

- 倉持会長        それでは、ただいまから第8回小金井市子ども・子育て会議を開催いたします。
- 今日は、栗田委員、水津委員、宗片委員のほうから欠席の連絡をいただいております。そのほかの方は遅れて来られるのではないかと思います。
- それでは、直ちに次第の(2)、「のびゆくこどもプラン 小金井」の進捗状況の点検・評価のほうを行っていきたいと思います。この間、皆様にはいろいろ御協力いただき、御意見いただいたところです。
- 事務局から資料を提出いただいておりますので、説明を受けたいと思います。よろしくお願いたします。
- 子育て支援係長    資料49を御覧ください。「のびゆくこどもプラン 小金井(第2期小金井市子ども・子育て支援事業計画)」事業進捗状況に対する令和5年度評価について(報告)の案となります。前回の会議を踏まえ、委員の皆様からいただいた意見を盛り込み、報告書案を作成しました。詳細につきましては資料を御覧ください。
- 子ども家庭支援センター長    前回御質問いただいております、ファミリー・サポート・センターの利便性の向上についてでございます。前回御回答させていただいた上で、アドバイザーからの聞き取りなどを行っていきたくと申し上げましたけれども、今回アドバイザーからの聞き取り等を行いましたので、補足説明させていただきます。
- まず、規定等について改めて確認したところですが、ファミリー・サポート・センター事業につきましては会則を定めて運営しておりますが、その根拠といたしまして、厚生労働省の定める事業の実施要綱や当該事業の適切な実施についてという通達等を基に行っている事業でございます。これらの中で会員への事業趣旨や会則についての説明を行うことや活動前のアドバイザー立会いによる事前打合せを行うこと、また援助を行う会員への講習を行うことなどが細かく定められております。このような成り立ちで、市独自で行っている事業ではないため、前回申し上げましたとおり、基本的な仕組みや手続等を省略することはできないという認識でございます。
- その上で、実務上どこか簡素化できる部分はないかということでアドバイザーに意見を聞きましたところ、既に顔合わせなど基本的な手続を済ませておられて、継続的に利

用されている方について、現在は翌月の利用予定などを電話で調整しているところですが、お仕事をされている方が多いので、メールでやり取りすることができないかといったことなどを考えているということでした。

以上の状況から、仕組み自体の簡素化は難しいところですが、個人情報の扱い等に支障がない範囲で、メールを活用するなどの取組の工夫を考えてまいりたいと考えております。

○倉持会長            ありがとうございました。

きっと宗片委員が御質問なされたのかなと思うんですけど、今日ちょっと御欠席なんです、ファミリーサポートの報告について何か御意見ありますでしょうか。簡素化についてはできる範囲でしていただけるということですけども、国の事業でもあるので、一定やっていかなくちやいけないことはあるということだと思います。よろしいでしょうか。

○谷村委員            ちょっとだけ。

○倉持会長            はい、お願いします。

○谷村委員            いろいろとメール等を活用して利便性の向上というところはいいと思うんですけど、その他もろもろ、いろんな事業において利便性というところの向上を図ろうというものが間に入って、そういうサービスというのを包括的というか、全体的に向上させるみたいな動きというのはあるんですかね。結構個別でいろんな、例えば学童保育のちょっとメールを担当する人とか、いろんな人がいるんですけど、はっきり言って、民間から見ると無駄が多いというか、手慣れたプロが1か所いて、全部集約してやるのが一番早いと思うんですけど、そのような動きというのは市のほうであったりするんですかね。

○倉持会長            いかがでしょうか。お願いいたします。

○子ども家庭部長    結論から先に言うと、結局、そのやり取りとか、各部署で個別にという感じですね。全体として、ICTの活用とか、特に今進められているのはLINEとか、そういうのをしようというのはあるんですけども、僕も前職ではそういうのをやっていたけど、技術者が集約的にコミュニケーションをデザインして、ツールを整えるという形で進めているわけではなくて、よい事例があったら共有されることはありますが、それを見倣いつつ各部署で取り組むというような感じになっていると。

○谷村委員            分かりました。

- 倉持会長       なかなか難しいところだと思うんですけども。
- 谷村委員       それを超えないと進まないと僕は思っているので、結局、本業じゃない人が、それこそ情報セキュリティーとかなかなか慣れていない方が情報を扱うというのが一番危ないと思うので、それだったらもう多分、一番最初にそれを考えて基盤をつくったほうがいいと思います。
- 子ども家庭部長   そこがちょっと今端境期でして、10月の予定なんですけれども、システムを大幅に更新しようとしているんです。今、行政側が個別のインターフェースが駄目なのはセンスとか技術の問題もありますけど、もともとちょっと土台として、マイナンバー系、それからL2WAN系、インターネット系と3階層にわたっていて、我々が使っているのがほぼL2WAN系というところなので、インターネットと直接じゃないんですね。そこを、総務省はそれを推奨しているんですけども、もう一段、インターネット系をベースにして業務系も、マイナンバーだけははっきり分けますけれどもというふうに変えるので、そうすると、インターネットとの親和性、業務でもふだんからそこに接続することになるので、その中でインターフェースのほうとかも変えていこうというのが今DXの方針になっていまして、ちょっと10月からに、一気によくなるか分からないですけど、乞う御期待というところで頑張っていければと思っていますところ。
- 谷村委員       すげえ期待していいですか。
- 倉持会長       話についていけないところもありましたが、期待したいと思います。ありがとうございます。

それでは、資料49の御報告をいただきましたが、このことも含めて何か御意見あれば、いかがでしょうか。見ていただけたでしょうか。資料49の後ろに出ているんですけども。

2番の(1)については、この「利用の利便性に関して御検討いただきたい」という記載でよろしいですかね。制限がいろいろあるにしても、利便性については今後も追求してほしいというようなことでよろしいですか。よろしいでしょうか。

それでは、特に御意見がないようなので、3番の子ども・子育て支援施策についてです。こちら、いろいろ御意見いただいたところですが、(1)については、こども基本法に基づく子ども施策の策定などへの子どもの意見の反映について、子どもがさらに意見を出したいと思えるような対応が求められていると思いますということで、そのような対応をしていただきたいということになっています。(2)については、児童館夜間

開館事業について、もう少し拡充してほしいということが書かれていると思います。

(3)については、各課の課題、検討内容として、「検討」や「研究」という文言があるんですが、これについてはもう少し明確な時期を示してほしいということになります。

(4)は、谷村委員がおっしゃったことだと思いますが、事業の実施状況とともに、予算額や執行額が分かるとよいということです。これらについていかがでしょうか。もう少しこういった書きぶりを考えてほしいとかいうことがありましたら。

○萬羽会長職務代理 すみません。3番に行ったところで申し訳ないんですけど、先ほどの2番のところで、(1)で、具体的に子育て援助活動支援事業に対して手間がかかる印象だったのというような、評価として次の意見を申し上げるというふうに挙げられているんですけど、もしかすると先ほどの谷村委員の議論とかを伺っていると、ここに具体的に書くというよりは、全体としてもしかすると、利便性の向上とか、検討いただきたいというような、ここだけを具体的に取り上げてこういう書きぶりをするよりも、もしかすると3番の後ろに入れて、もう少し全体を包括する形で、全体の支援策を利便性の向上に期待するとかというような書き方でもいいのかなとちょっと思いました。

○倉持会長 地域子ども・子育て支援事業についてというところで、ファミリー・サポート・センターに特別利便性ということになっているんですけど、もっと全体的なものとして利便性、支援事業については利便性をもって取り組んでほしいというような書きぶりにしてはどうかという御意見だったと思いますが、いかがでしょうか。

谷村委員からオーケーのサインをいただきました。

○谷村委員 僕だけ偉そうな感じになってしまいました。

○倉持会長 それでは、ここはもう少し広く捉えて、3のほうに加えていくということですか。そのような書きぶりについては、ちょっとこちらで検討して、またお示しして、御意見をいただくことになると思いますが、そのような形でよろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○倉持会長 3の(1)については喜多委員のほうからあったと思うんですが、いかがでしょうか、この書きぶり。資料49の3の(1)です。子どもがさらに意見を出したいと思えるような対応が求められていると思うと。

○喜多委員 3の(1)のこども基本法に基づく子ども施策の策定等への子どもの意見の反映について、さらに意見を出したいと思えるようにという、ここはちょっと私のほうで出したんですけども、非常にポイントになるのは、キーワードは「反映」という言葉なんで

すね。子どもの意見を反映するというのを、こども基本法の11条や17条で反映という言葉を使ったというのが物すごく大きいんですね。普通は尊重止まりなんです。子どもの御意見は尊重しました、でも決めるのは私たちですという形で今まで来ていたんだけど、そこをもう一つ踏み込んで、子どもの意見は反映しなければいけないと言うと、どこを反映したかが問われちゃうんです。子どもの意見のどこを政策に反映できていますかという、これは議会からもそういう質問が出る可能性があるんですね。それに答えなきゃいけないというのは結構しんどいと思うんです。ですから、そういう意味では、子どもたちの意見を本当に反映していく仕組みをどうつくるかというのは、今後ぜひ子ども・子育て会議でも検討いただくといいのかなと思っております。

○倉持会長 次期のびゆくこどもプランなんかでは、そのところをもうちょっと具体的に議論できたら。

○喜多委員 そうですね。

あと3の(2)は、できれば次年度というか、次期計画の中でももう少し具体化、児童館の夜間開館事業、これは要するに中高生の社会参加、地域参加を推進していく拠点的な位置になるんじゃないかという期待感があるので、そういうところは次の計画の中に、ぜひ3の(2)は広げてもらえるといいなと思います。

○倉持会長 表現としては、(1)、(2)はこの程度で大丈夫でしょうか。

○喜多委員 今回はしょうがないんじゃないですか。次の計画へ反映させていくということで。

○倉持会長 では、ほかにはございませんでしょうか。報告については、こちらの評価表について書かれている子ども・子育て会議意見のほうもちょっと見ていただいて、もう御覧になっているとは思いますが、何かもう少しこういうことも書いてほしいということがあれば、これが最後のチャンスなので。お願いします。

○石倉委員 さっきの全体に係る話だよねという話は、多分この3の(3)もそうで、「検討」や「研究」というのは別に評価表3だけにあるわけじゃなくて、2とかにもあるじゃないですか。多分、前回の話でも、結局、通常で考えたら、5WとかPDCAみたいな、いつまでというのがあるので、これは多分3だけに、3の評価表にも関わるよということもあるので、そういった書き方のほうがいいんじゃないかなというのを思いました。「研究」と「検討」は結構、お好きなのか、散見されるので、いつまでにみたいなことは共通の話かなというのを感じています。

○倉持会長 ありがとうございます。全体に関わって、そこら辺をもう少し明確な表現にしていく

ということが次回から求められるということですね。

○石倉委員       そうですね、はい。

○倉持会長       ありがとうございます。ちょっとそこら辺、書きぶりを考えていきたいと思いますが、ほかにはいかがでしょうか。大丈夫でしょうか。よろしいですかね。

では、これで、今御意見いただいたのを基にして、こちらのほうでまとめていきたいと思えます。今後のちょっと修正したものについてはまた皆さんにお示ししていくこととなりますけれども、こちら、会長一任のほうにさせていただければと思えます。そして、後日、市に送付していくこととなりますが、何か御意見ありますでしょうか。大丈夫ですか。あと少しお時間取らなくて大丈夫でしょうか。奥村委員、久しぶりにいかがですか。何か御意見とかあれば。

○奥村委員       大丈夫です。ありがとうございます。

○倉持会長       それでは、次第の（２）のほうは終了といたします。

次に、次第の（３）、その他を議題としますが、委員の皆様から何かございますでしょうか。子育て支援についての質問だとか何かありますか。大丈夫でしょうか。大丈夫ですか。

○谷村委員       この最後の提言に入れるコメントをしようか悩んだんですけど、利用者側として、やれやれやれやれ、これをしてほしいとかさんざら言うのはいろいろあるんですけど、この間の保育園のお話、保育士のお話とかあったと思うんですけど、そういうのを含めて、各事業を運営していく中での持続性というのをどっかでリサーチしておいたほうがいいんじゃないのかなと思って、各子育て支援事業の民間事業者とかでも、働いている方がなかなか厳しいというのはよく聞く話なので、そういうところも市がリサーチして、持続できそうなのか、厳しそうなのかというのはやったほうが、次期の計画に盛り込むのか盛り込まないのかというところにはなるかもしれないですけど、学童の指導員の方とかもなかなか厳しいとか、よくそういうお話とかを聞いたりとか、あと別の保育園とかでもなかなかというところがあったりするのをよく耳にするので。

○倉持会長       持続性というのは、経営的な話ということ。

○谷村委員       そうですね、はい。

○倉持会長       この点について何かお考えは。話題になったりはしていますか。特にない。

○子ども家庭部長   子どもたちが受けた保育とか、また学童保育とかを含めて、また児童館がどうふうにされているのかというのは行政として関心があるところなので、その辺は問題が

あれば補助とか支援も必要だと思うので、考えていきたいと思います。ただ一方でいうと、私立、それぞれの社会福祉法人とか株式会社が自律的に経営なさっているというのはすごく大事なことです、その辺は民間園長会を始め、あと学童保育については民設民営を来年度から始めようとしているところなんですけれども、それだと、ある意味、運営されている方との接点のほうが多くなりますが、その中でお困りな点とかがないのかとかを伺って、保育園の民間園長会のほうでも有意義な御提言をいただくことがありますので、その辺は耳を傾けながらやっていきたいと思っています。やはり特徴を生かした経営の自律性というのも大事にしたいところなので、一方で、運営される側としても、また現場としても、困ったことがあれば耳を傾けてということになると思っていますので、そんなお答えの仕方になりますけれども。

○倉持会長　　この間出た話の中では、保育者の方たちがもう少しお互いに、保育園同士でつながっていくということが職場の改善につながったりとか、お互いいい保育を考えていく手だてになるんじゃないかみたいな発言もありましたけれども、そういうところももしかして考えていくと持続的な保育ということにつながっていくのかもしれないなと思いますが、長岡委員、何か意見とかありますか。

○長岡委員　　事業の持続性というのは非常に難しい問題だと思うんですけども、リサーチというところでいうと、認可保育園は施設調査書というものをを出してしまして、予算、決算、またそこから人件費比率も小金井市の保育課としては把握しているところであると思うんです。そういったところでは、リサーチをする方法は幾つもあると思っています、もう現在。そこで、それを見る時間というものがないのではないかなと。各園を保育課の方が回るということも一切ないんですね。それは時間をつくり出すことができないんだと思うんです。その仕事量というのがあまりにも膨大で、本当に気の毒になるぐらい、行政の方々は今頑張ってくださいっているんじゃないかなと思います。正直に言うと、なないろさんとかコスモさんとか、いろいろな問題はああるかと思うんですが、そういうときにも、やはりヘルプを出すのは事業所から保育課に出させていただいてますし、そこになるまでにならないように各園本当に努力はしていると思っています。ただ、本当に保育業界だけでない求人難であったりとか、そういったところどこまで、合併とか、今はいろいろなことが言われていますけれども、本当に、リサーチと一言で言われても、そんなに簡単なことではないのかなという気はしています。

○倉持会長　　生の声をありがとうございます。



○子ども家庭部長 今先生のほうからあったんですが、なかなか我々も現場を回れないとか、指導検査が東京都含めて追いついていないというのが課題で、今年度とか指導検査の回数も増えてきましたので、また、この間、これだけ報道されるようになってしまったコスモに関しては、やっぱり現場のほうで何か起きていて、保育士の方が困っていたりして、困ると思ったので、その現場を、なないろのほうもそうですけれども、現場を見に行くというのを急ぎ保育課のほうでもやってくれたと。ただ、今先生の御指摘があったとおり、なかなかふだん手が回らないという現実があって、今やっている段階的縮小の中では相談支援チームを立ち上げるということを考えていまして、それで、今よりも日常的な接点とかを増やして、御相談いただけることがあれば御支援につなげていくとかいうことをしていきたいと思って、そういうふうな方針になっているところです。現時点、努力していますがというところはあるんですが、そこを改善するような仕組みをつくろうとしているところです。

○倉持会長 ありがとうございます。

何か谷村委員、ございますでしょうか。

○谷村委員 いや、ここでこういう、事前に調べてとか、そういうことが起きる前にということができればいいなど。現状、人が足りていないということも、この議論を基に予算がつけばいいなど僕は思っていて、こういう議論がなかったら多分人が足りていないというのも顕在化しないわけだし、こういうことをみんなが認識した上で初めて次のステージに行けるのであって、文言が残るだけでも、次の予算立てに利用していただければと。

○倉持会長 確かに、そうですね。ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。その他、特に何か言っておきたいことはありませんか。大丈夫ですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○倉持会長 それでは、本日の審議はこれで終わりとなりますが、この会議は2年間の任期ということで、本日が最後になります。委員の皆様方から、事前に言っておいたと思うんですけども、一言ずつ感想や、あるいは特に次期の会議に引き継いでいきたい、今も結構出ましたけれども、そういうことがございましたらぜひお言葉をいただけたらと思います。よろしいでしょうか。大変恐縮ですが、石倉委員からお願いします。

○石倉委員 ありがとうございます。勉強をしつつ、子どもも中学生とかなっていて、子ども・子育てのところは結構もう違うステージに来ているので、なかなか現状も分からなかつ

たりとかする中で、自分の意見とかも出せたところ出せないところあったかなと思います。なので、ちょっとさっきその他で言えばよかったんですけど、さっき、今日の中でも、何だろう。中高生の居場所というところで児童館夜間みたいな話があると、当然、今、私も中学生の息子2人いて、うちはないですけど、ヤングケアラーの問題とか、あとはいわゆる受け子みたいな話とか、あとは薬物の話とか、結構身近にあるよなというのがるので、その中であった児童館の夜間開放というのは、そこは労働条件とかもすごく大変だと思うんですけど、ああいうところがあるだけでも少しそういった社会課題の解決にもなるかなと思っているので、ぜひそういったところも、次回というか、次、そういったところの議論もやっていただけたらうれしいかなと思っています。ありがとうございました。

○倉持会長       子どもの年齢は幅広いですからね。ありがとうございます。

そうしたら、奥村委員、お願いいたします。

○奥村委員       いろいろ思い出すところはあるまして、印象的だった出来事をちょっと思い出すと、当時なんですけれども、保育園の入所申請を行ったところ、小金井市は入所の決定まで、近隣の他市より1か月長く時間がかかる。申請の不備があって修正する等の期間を含めても、提出から入所決定まで、近隣の他市より1か月以上かかる。そのことをお聞きしたところ、市の担当者からは、市としては問題とは思っていませんと言われたのがすごく衝撃的でした。市民は困っているけれども、市役所目線だと困ってないんだな、問題ではないんだなというところが印象に残りました。また、前回、欠席したんですけども、プランの報告について、分かりにくい部分があって質問して、質問に対する質問票は来るんですけども、分かりにくいと言われたときに、普通は説明しないと分かりにくい部分は訂正したり、わかりやすくしてくださると助かるんですけども。市民にとっては分かりにくいと思っても、これはそのままにしておくということは、市役所の方々にとってはそのままのほうがいいんだなと。どちら目線なのかなというところはちょっと思うところがあります。今オンブズが大分広まりつつあるところで、子どもの声というのはすごく大事だとは思っているんですけども、それが、例えばいじめを受けている人が、私は重大ないじめを受けていますと言うまで取り上げられなかったり、乳幼児、赤ちゃんとか、私は遊ぶ場がなくて発達できなくて困っていますと言うまで待つとか、私は虐待に遭っていますと言うまで待つとか、そういうふうになったら、子どもの権利を守るべき場なのに、子どもの声を尊重したためにできなくなるというたら

本末転倒となります。何が言いたいのかというと、どこを目線にして、何を目的にしてやるかによって、全然やり方が変わってくるなど。誰の福祉を増進するために地方自治があるのかなどか、そういうこともちょっと考える機会になったりもしまして、あと最後にちょっと、この会議とはまたちょっと違うとは思いますが、保幼小関係の連携というのは全然やっていないということを伺ったんですけれども、これは教育委員ですかね。ここではまた違う。他市だと、保育園、幼児教育と小学校の連携を結構やっているんですけど、小金井市はやっていないとお聞きして、もしちょっと、場所は違いかもしいんですけれども、取り上げられたらいいなと思っています。

2年間どうも、いろいろと勉強させていただきまして、ありがとうございました。

○倉持会長      ありがとうございました。

○子ども家庭部長    幼保小連携なんですけど、コロナでちょっと去年1年中断していたところがあるんですが、教育委員会と一緒に検討の委員会を設けてやっています。また、個別具体的なことでいうと、やはり幼稚園、保育園から小学校に上がるときの情報の連携というのがメインなんですけど、それだけではなくて、わかたけ保育園とかが例えば例なんですけれども、行ったのは前原小でしたっけ。南小か。小学校に行くところはそういう連携も。ちょっと保育課長から。

○保育課長      やはりどうしても、幼保小連携といいましても、最終的に進学というか、進級していく小学校のほうに軸になっていただく部分が大きいと思っております。私のほうが先日校長会でもそういうお願いをしまいましたが、学校ごとにどうしても教育課程を組まれたりしますので、その中で、今学校ごとにお考えいただいている部分が多少動きが出ているのは伺っているところです。前原小学校が近隣の保育施設さんにお話をされたりとか、そういった形で今伺っているところがございますので、私どもとしては、次期の計画に向けてではなくて、今ある課題として、何とか幼保小連携、特に保育、幼稚園、子ども家庭部が所管している部分として、学校との連携を進めていきたいと考えております。

○奥村委員      市のほうから小学校にやってくださいというよりか、小学校がやってくれるのをちょっと待ったり促進するような、そういう今状況で、ここからだんだんとやっていくような形。

○保育課長      もともと既に取り組まれている、関係があるような保育施設さんも多いんですけれども、この間、待機児童の解消で新規の保育施設さんも増えております。もともと昔から

小金井にあった保育園さんなんかは、既に近隣の小学校さんと多少の関わりがあったりされている園さんもありますが、全体として、新しい保育園さんとかだと、なかなか関わりが少なかったりする部分もございます。ですので、そういったところが組織的になかなか動いていないというのは課題かなと思っておりますので、そちらのほうをどう取り組んでいけるかをこれから考えていくべきかと思っております。

○奥村委員 ぜひともよろしく願いいたします。ありがとうございました。

○倉持会長 学習指導要領の中でもすごく大事にされているので、取り組んでいく学校がこれから増えるんじゃないかなと思います。

喜多委員、よろしく願いします。

○喜多委員 私はもともとこの委員会との関係は部会のほうが中心でして、子どもの権利部会の言わばアドバイザー的な役割をやっていて、特にオンブズ、権利救済の仕組みが必要だという話になって、オンブズの制度設計に係っている人たちを集める係で、何とか条例化、設置条例ができて、もう今、今後はどう普及啓発あるいは評価、検証をどう進めるかという、そういう方向のところでも私今お役に立てればというところなんですけど、ただ、小金井市は、先ほども申し上げたように、もう一つ大きな制度的な課題としては、子どもの意見表明・参加の仕組みをどういうふうにつくれるのか、条例はあまり具体化させていないので、ここも今後、計画の中にももちろん盛り込むことも大事なんですけれども、せっかくこども基本法が制定されて、意見表明・参加を重点的な子ども施策として国も打ち出している中で、何度も言うけど、反映という言葉はきついんですよ。今まであまり聞かないですね。大体、尊重止まりなんですよね。反映という言葉を入れたために、これは自治体も同じなので、今後これに苦勞するだろうと。しないためにも、仕組みをしっかりとつくっていくことが大事じゃないかなと。それは、次の会期まで私もちょっと関わらせていただくということで、よろしく願いしたいと思っています。

○倉持会長 ありがとうございます。

そうしたら、古源委員、お願いいたします。

○古源委員 委員として3期6年間関わらせていただきました。特に現行ののびゆくこどもプランに関しましては策定の段階から関わらせていただきましたので、内容的なことはもちろんなんですけれども、文言ですとか表現とか、そういったことから皆さんと一緒に練ってまいったわけで、その確認作業に加わられたということは本当に大きな、貴重な体験に

なりました。それと、上位計画があつて、それに基づいてのびゆくこどもプランを策定していくというようなことも考えたことがなかったので、とても視野が広がって、いい経験になったと思っております。私は民生・児童委員の協議会のほうから参つておりますが、子どもたちの状況が今大変多様化していて、子どもの置かれている状況というのは想像できないこともあると思うんです。そんな中で、委員の皆さんの中からも、計画は計画、施策は施策なんですけれども、その中できめ細やかな対応であるとか、多様な子どもたちに対する多様な支援、どの子どもも取り残さないというようなことをたくさん意見として伺いました。私が民生・児童委員としてできる部分、また市が行政としてくださる部分、そういったことを考えながら、今、私はこの会議、これでおしまいですけれども、また別の場所で子どもに関わっていきたいと思っております。子どもがのびのびと育つまちということを目指して、これからも体制が充実していくためには、やっぱりこの会議の役割というのはますます大きくなってくると思いますので、次の委員の方々に期待したいと思っております。ここで出会えた皆様方とはまたどこかで御一緒するかと思っておりますので、そのときにはどうぞよろしく願いいたします。

どうもありがとうございました。お世話になりました。

○倉持会長           それでは、鈴木委員、お願いいたします。

○鈴木委員           「どうも鈴木です」と言うのもこれで最後かなと思うんですけれども、私も古源委員と同じように、3期連続でこの立場に携わらせていただきました。もともとは子どもが通っていた保育園で、認可外保育園だったんですけれども、認可保育園との格差を是正しようという活動をしておりまして、そこから1人ここに送り込んでというような流れで送り込まれたという感じで参加しています。そういう経緯だったので、完全に素人で、何か全体的な、保育じゃなくて、子ども全体の施策を見てどう思うかとかというのあんまりない立場だったので、もう腹をくくって、なるべく普通の市民が普通に思うことを伝えることが仕事だと思い、恥を忍んで、分からないことを分からないと言い続けるというような立場で参加してきました。さすがにこれだけやるといろいろ分かることも出てきて、それは結構勉強させていただいたなと思って、大変感謝しております。最初は第1期ののびゆくこどもプランの評価のところから参加したので、本当に分からないことだらけで、しかも、なぜやるのか分からないとか、こんな評価でいいのかとかという、文句を言うのは簡単なんですけれども、そういうことだらけだったんですけれども、次の期の策定も参加させていただいたので、どういう産みの苦勞があつて、どう

いう検討でというところも分かりまして、こういう背景があるからこうなっていると。関わっていないければ文句はいっぱい出てくるんだけど、その裏の部分で大変な部分もあるなというのがよく分かりました。

ただ、この6年間やってきた中で2つ思うことが、全体として思うことがありまして、やっぱり前から言っているときには個別事案を潰していくようなことしかできていなかったかなというのが心残りで、例えば保育行政、昔は待機児童解消というのが喫緊の課題で、それに向けて、みんなもちろんそれに目は向けるんですけども、そのときから、やっぱり一方で、そうやって解消していったら保育の質をどうやって担保するかという問題は言われてはいたんです。だけど、本腰はなかなか入れられなくて、優先度が下がった結果として、待機児童解消を主に置き、並行してやると言いながら、なかなかそこは後手に回るかなと、考える余裕はないかなというふうに進んできたかなというのが正直な感想です。もちろんそうやっていけば、今度、同じように、学童は同じ人たちが利用するんだから定員いっぱいになっちゃうでしょうということも言われていたんだけど、今まさにそういう問題が出てきて、どうしようという状況になったんだけど、それは容易に予想ができたんだけど、やっぱり手が回らなかった。前にもお話あったように、日々忙しいし、やらないといけないことがあるというのが一番の問題かなと思っていて、個別事象を対応するのは大事なんですけれども、全体、もう一步引いて、大きく解決できる次の一手を先んじて取れるような体制ができたらいいなと、これは理想論なんですけれども、思いました。もちろん、先ほどその他のところでこういうことを言えばよかったのかもしれないんですけども、完全に僕の独り言みたいな感じになっちゃうので、こちらに代えさせていただきましたけれども、もうさらに一步引いて考えると、小金井市がどういうところを目指すのかみたいところを本当は議論したかったなとは思っています。子ども・子育て会議なので、子ども関係の施策に対して議論するというのはそうなんですけれども、こういうことを通して小金井市はどういう市になりたいか、外とは何が違うかとか、どういうふうに人を呼び込みたいかとか、アピールしたいかとか、そういうような話ができればいいかなと思うんですけど、そんな余裕ないよというのが当然予想される反応で、先ほども言いましたけど、やっぱり一番は、そういう余裕がつかれないところが問題なのかな。表面的な市民感覚としては、税金の使い方にはうるさいんですけども、同じように人的リソースの使い方にももう少しうるさくなくてもいいのかな。余裕がないというのはそういうことで、やっぱりリソースの

使い方、能力の使い方がちょっと検討の余地があるかなとは思っています。その辺、少し引いて、大きなところで、余暇に話すような議論ができるような場にもなったらいいかなと思いますし、場合によっては白井市長にも来てもらって、ざっくばらんに話してもいいかなとも思いました。

最後にいろいろ言ってしまうと、すみませんでした。6年間、いろいろありがとうございました。

○倉持会長            ありがとうございました。

それでは、谷村委員、お願いします。

○谷村委員            鈴木さんとはよく話しているの、鈴木さんが大体のことを話してくれたかなと、長々と。自分は今、子どもが中学生、小学生、保育園とばらけていまして、いろんな方面でいろんな問題があるというのが耳には入ってくるんですが、それとは別に、子ども3人の、子どものためを思った施策というところを考えると、子どもの気持ちがいまだに全く分からないので、本当に反映できているのかと日々想像しながら、子どもはどうしてほしいのか想像しながら、何とかここで反映できたらなと思っているんですけど、中学生の娘は全くもう口も利いてくれず、そういうところからちょっと、会話するところからスタートしないと、子どものための施策って難しいなとは感じています。一番上と下が9つ離れているんですけど、最近ちょっと感じる場所がありまして、小金井市の親御さん含めた親世代の風土が大分変わってきたなというのはすごく思っていて、もともと小金井市は、僕のイメージなんですけど、金ない貧乏な市なんだけど、人と人がつながって何とか頑張っていきましょうというのが昔は小金井風土みたいな、そんなイメージだったんですけど、昨今入ってきた親御さんとかでいくと、金払うからどうにかしてくれというのが結構メインになってきているなと思っていて、つながりとか面倒くさいから、取りあえず金は出すけど、サービスないかなというのが流れてきているので、そういうところも含めて、小金井市のかじ取りも難しいだろうなとは感じています。

あと、いろいろとありましたけど、親切に御対応していただき、皆さんありがとうございました。

○倉持会長            ありがとうございます。

そうしたら、檀原委員、お願いいたします。

○檀原委員            令和元年か2年頃からこちらにお世話になって、参加させていただいたかなと思いま

す。学校の立場でどれぐらい意見をうまく伝えられたかなと思うと、ちょっと不十分だった点もあったかなと思うんですが、会に参加してきた中で、ここでの話合いがこうやって実を結んでいくんだなと特に思ったのは子どもオンブズパーソンの開設でした。コロナ前から話がずっと始まっていて、コロナ禍で一体どうなるんだろうと思ったところ、着々とその事業が進み、しっかりとした制度として立ち上がって、本校の子どもたちもその中で困ったことを伝えたりしながら相談することが実際にあったというのを考えると、とても意味が大きい事業だったのではないかなと思っています。今現在、学校では本当に、コロナ禍の影響もあるんでしょうけれども、不登校、あと適応障がい、適応がうまくできないお子さん、いじめはそれほど小金井市は多くはないと思うんですけども、不登校関係とか適応できないお子さんの数は年々増えてきていて、学校現場の中で個別対応が迫られています。その中で、この中に1つある、子どもの学習支援事業というものがあって、学校の中では今、いろんな立場の方が入ってきて、サポートしていただくんですね。例えばスクールソーシャルワーカーの方も数年前から入って活動していますが、フル回転でございます。しかし、そういった方たちも入れ替わりが多いんですね。そういった方たちがしっかり根づいて、1年単位ではなくて数年単位で関わっていかないとなかなか成果が見えないものもあるのかなと。ですから、この子どもの学習支援事業という21ページが一番下にあるものが予定どおりいかなかったと書いてあるんですけども、例えばこれがスクールソーシャルワーカーだったり、学校の制度をよく知っていて、多分保護者のほうが要請するんだと思うんですけども、逆にこういうものを情報提供して、こういうものを積極的に活用してくださいとか、連携ができればよかったのかななんて今になっていろいろ思っているところです。学校現場が一番子どもたちが長く過ごすスペースであって、そこの連携で幼保小あるいは中学の連携も出てくるわけですが、今後また、こういった話合いの場があるということを私も意識しながら、校長会等を通して発信していけたらなと思っております。十分に役割を果たせたか分かりませんが、長い期間ありがとうございました。

○倉持会長       それでは、長岡委員、お願いいたします。

○長岡委員       子ども・子育て会議の委員を務めさせていただきまして、本当にありがとうございました。小金井市の民間保育園の代表として、諸先輩方の跡を引き継いでこの会議に出席できたことは、本当にとても有意義な時間でした。様々な子どもたちに関わる機関の有識者の方々の御意見をお聞きして、各方面の現在の状況を知ることができ、本当に認可



保育園という狭い世界で仕事をしていることをひしひしと実感することが多く、子どもに関わることで、認可保育園の域を超えて考えることができたことは、本当にとても感謝しています。ありがとうございます。この間、児童発達支援センターきらりの設立からの運営であつたりとか、喜多先生のお力もあって子どもオンブズパーソンの設置、あとは市長が交代され、また公立保育園の今後のことであつたり、また何よりコロナという想像もしなかったような事態、また、待機児童がたくさんいるところからゼロになるという激動の時期にこの任期をさせていただいたわけですが、本当に、司会をされていた倉持会長を始め、行政の方々もとても大変だったことと思います。本当にお疲れさまです。今後もこの会議が小金井市の子どもたちのために有意義な会議になることを心から願っています。また、重要なポストに就かれている方とか、お子様のいらっしゃる委員の方々もいらっしゃるので、お願いなんですけれども、夜遅い会議でもあるので、後任もまた来るんですけれども、できるだけ定時に終了できるとありがたいなと思いますし、あとは、どうしてもこの席上での話というのは、本音というか、発言も制限されていることもあって、定時に終わって、皆さんとちょっと飲みに行ったりとかできたらさらによかったんじゃないかなと。ただ、コロナもありましたので難しかったと思うんですけれども、何か心から打ち解けるような会議になることが、次期の委員の方々にはぜひ期待をして、さらに小金井市の子どもたちのために皆さんと力を合わせて協力していけたらいいなと思っております。本当にありがとうございました。

○倉持会長        それでは、深井委員、お願いいたします。

○深井委員        今回が直接、今までちょっと書面でのみで参加させていただいていたところで、今回初めて出させていただいております。私は去年度から多摩府中保健所にいるんですけれども、その前の前任も恐らく来られていなかったんじゃないかなと思っております。端々でお話があったような、やはりちょっとコロナ対応で全く、コロナ対応一本という形で保健所はやってまいりまして、本当に空白の2年間だったなというように感じております。やはり保健所、私の所管では、精神保健ですとか障がい、難病という視点からお子さんに関わるというようなところなんですけれども、やはり通常の本当に広く子育ての施策というのを、子ども・子育て施策を分かった上でやはりそういった対応をしていくべきだなと思いますし、これからは参加できるかと思っておりますので、保健所も近い存在でいたいなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。本当に初めましてで申し訳ないんですが、ありがとうございました。

○倉持会長           ありがとうございます。

そうしたら、村田委員、お願いいたします。

○村田委員           小金井けやきの森認定こども園、私立幼稚園の代表として参加させていただきました。ちょうど4年ほど前に新型コロナが流行しましてから、コロナ前には思いもよらなかつたりリモートワークですとかリモート会議ですとか、今ではもうすぐく当たり前にはなりましたけれども、便利になり、合理的にもなり、ただ、保育ですとか教育ですとかといったところはそういう合理性からちょっとかけ離れた非合理性の中にあるんじゃないのかなといつも思っています。幼児教育も随分変わってきて、私たちも何を求められているのかというのをよく考えさせられるときがあります。私がいつも思うのは、自信を持って、自分が、自分のことが好きだと言える魅力的な大人になってもらいたいなど、それが私のいつもの願い、子どもたちへの願いかなと思います。小金井市もそうですけど、少子化が本当に深刻になって、この少子化への対策もそうですが、全く違う多様性を認め合うという文化も共存していかないといけない。例えば結婚しない権利ですとか、子どもを持たない夫婦の自由というのも尊重していく中で、ちょっと違った両輪を一緒にこいでいかないといけないという難しさを、国もそうですし、自治体も抱えていくんだろうなと今考えています。そして、先ほどお話がありましたけれども、私の職場の職員の中でも、園児の保護者の中でも、不登校ですとかひきこもりとか、あとは貧困ですとかヤングケアラーの問題、少し前までは人ごとかなという感じがしていたんですが、今、本当に頻繁にそういう問題に直面するときがあるというか、向き合えないといけないときが。そういう難しい、困難な状況にある子どもたちへ癒やしだったり、そういう環境を与えられるようになりたいなど。なりたいなもそうですし、世界、世の中自体がそういうふうになってもらいたいかなと。様々制約がある中ではありますけれども、お金に困ったらとか、精神的に疲れちゃったら、でも大丈夫、必ずそれは社会が何とかするから、だから大丈夫ですよと言ってあげられる。子どもがいる家庭も、子どもがいない家庭も、子どもがいる社会が当たり前と思っていただけになったらいかなといつも思っています。本当に、こんないい機会を与えていただいて、皆さんからたくさんの意見を聞くことができ、本当に有意義な時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

○倉持会長           それでは、萬羽委員、お願いいたします。

○萬羽会長職務代理  私はふだんは教員養成に関わっているので、間接的にはもちろん子どもというこ

とを常に考えてはいるんですけど、恐らくこの今いらっしゃる方々の中で一番直接的に子どもとか子育てということと関わる機会がない人間なので、ここに参加するのも最初はすごく申し訳ない気持ちになったりとか、あと本体会議もそうですし、居場所部会とかでも、本当に不勉強で分からないことだらけだったので、御迷惑をおかけすることも多かったかと思うんですけど、反対に考えると、ここが唯一、私にとっては子どもとか子育てとすごく関わる場だったなと思っていて、すごくたくさんのことを勉強させていただきましたし、こういう地域での子育てとかまちづくりとか考えたときには、やはり直接的に関わらない大人とか、あともっと若い世代の人たちも子育てとか子どもということを考えるということとはとても大事なと思うので、私のようなこういう立場でも、やっぱりこういう場を持たせていただいたことで考える機会を持てたということとはとてもいいことかなと思いましたし、やはり当事者の皆様からの意見というのはとても大事だと思いますし、そういう方に向けて情報を発信するということも大事だとは思いますが、直接今は関わってなくても、将来もしかしたら関わるかもしれないとか、直接的に関わってなくても、どういう形であっても、何かしら支援とかつながりを持てるかもしれないという意味では、当事者だけじゃなくて、周りにいるもっといろいろな人たちに子どもとか子育てのことを知ってもらえるような、全然分からない人間からすると、やはり情報とかもすごく難しく、ぴんときないというところもあったりするので、そういうのがもう少し伝わるような発信の仕方であるとか、やっぱりもっともっと若い方、若くてまだ子育てとかに関わっていない人たちも希望を持てるような発信の仕方、今関わっている人だけじゃない、もっと広いところに向けたこういう子育てとか子どもについての情報発信とかということも今後は広げていけるといいのかなとちょっと思っているところです。2年間、本当にありがとうございました。

○倉持会長            ありがとうございました。

それでは、事務局からお願いします。

○子育て支援係長   宗片委員から事前に挨拶文を頂いておりますので、事務局のほうで代読させていただきます。

最後の会議が欠席となり、申し訳ありません。子ども・子育て会議は、様々なバックグラウンドを持った委員の方から自分とは異なる御意見を伺える貴重な機会でありました。また、のびゆくこどもプランや子どもの居場所部会を通して、ふだんは意識することのなかった子どもに関しての施策などを学ぶこともできました。本気で子どものこと

を考えて議論するこの会議によって、小金井の子育て環境がさらに向上していくことを期待しています。ありがとうございました。

事務局からの代読は以上です。

○倉持会長

ありがとうございました。

それでは、最後、私のほうからも少し発言させていただきます。さっき萬羽委員も言いましたけど、子育てについては親になってから学ぶこともたくさんあるとは思いますが、親になる前に体験しておいたほうがいいこととか知識として持っておいたほうがいいことというのは確実にあって、それが虐待の予防にもつながっていくなんていうことが最近すごくよく分かっています。私は家庭科教員、唯一、学校教育の中で保育を教える教科である家庭科の教員養成に携わっています。そこで、子どもを産む産まないにかかわらず、中高生の段階からどういう知識だとか、あるいはどういう体験をしていくことが子育て、子どもに虐待をしない人になっていくのかということはずごく大きな問題だと思っていますし、学校教育の中でそういう知識だとか体験とかができるということがすごく重要だと思っています。ただ、一方で難しいと思うのは、家庭科の授業でも、児童虐待の予防につながるような授業はいろいろ考えられていて、実際に実践している先生方もいます。そこで大きな問題となってくるのが、当事者が教室の中にいたときに彼らを傷つけるんじゃないかという問題です。これはどうしてそういう問題が起きるのか、どうしてそういうことが言われてしまうのかといったときに、当事者になった子を救うシステムがきちんとなっていない。なので、やっぱりそこで、自分は虐待されているんだということが分かってしまったときに、その子は声を出せなくなってしまいます。そう考えると、本当に小金井市でオンブズパーソンのような仕組みがあって、自分が虐待を受けていた場合にそれを声に出せる、周りがそれを知ったときに言うことができる仕組みというのを広げていかないといけないんだなというのはすごく感じているところです。いい仕組みはここだけにとどめずに、どんどん広げていけたらいいなと思っています。この間、会長として至らぬところもたくさんあって、申し訳ないこともあったかなと思っています。特にオンラインでの会議のときは皆さんを画面越しにしか見られずに、どういうふうな反応をしているのかよく分からないまま話を進めていってしまって、ちょっと距離を感じる場所もあったんじゃないかなと思っています。ただ、私としても、いろんな意見をお聞きできたことがとても勉強になっています。今後、のびゆくこどもプラン、また新しいのを作成することになりますが、皆さん

の今出たいろんな意見をぜひ反映していただけるようお願いしたいなと思っています。  
以上で私からの言葉としたいと思います。

それでは、事務局から何かございましたらお願いいたします。

○子ども家庭部長 委員の皆様におかれましては、2年間にわたり、またもっと長く期をお務めいただいた委員の方もいらっしゃいますけれども、子ども・子育て会議の委員として御尽力いただき、ありがとうございました。なお、今年度の後半の審議は、次期子ども・子育て会議のメンバーにバトンタッチしていただくことになっていくわけなんですけど、次期のびゆくこどもプラン策定に向けて、小金井の子育て・子育ちも大きく変わっていく時期ですよ。国としてもこども基本法ができましたが、先生のほうからもありましたとおり、待機児童がゼロ歳児が多い一方、学童保育だとかいうことを含めて大きく変わる時期ですので、引き続き御留任いただく方には、子どもたちのために、ぜひ御尽力をいただきたいと思っています。このたびはどうもありがとうございました。

○倉持会長 ありがとうございます。ぜひぜひ次期ののびゆくこどもプランにも御協力いただけたらと思います。

それでは、以上をもちまして今期の会議は終了したいと思います。どうもありがとうございました。

— 了 —